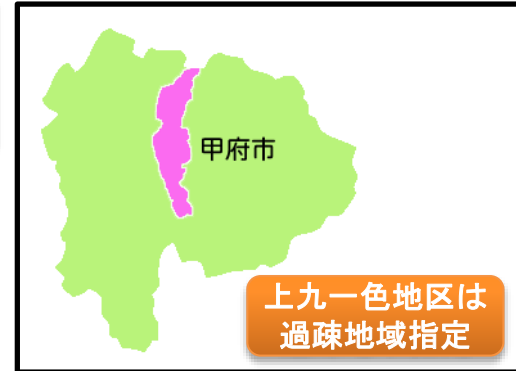


令和元年度 甲府市地域公共交通会議 (山梨県甲府市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)



地域の公共交通等の現況

当該地域は、本市の南端の中山間地域(平成18年3月に、旧上九一色村が南北に分村合併した際の北部地域)に位置し、唯一の公共交通機関であるコミュニティバスが、地区住民の通勤・通学・通院等の移動手段となっており、交通手段のない交通不便者にとって欠かせないものとなっている。

また、コミュニティバスは、本市がバス事業者に業務委託し、定時定路線での運行をしており、当該地域での運行を継続できるよう、地域住民で構成される「上九一色地区公共交通協議会」において継続的に運行計画などを協議している。

網形成計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

本市の公共交通の現状や課題を整理した上で、①土地利用計画などとの一体性を確保した公共交通ネットワークの構築、②多様な交通手段の適切な組み合わせによるネットワークの再編、③効率的かつ効果的な利用促進の実施と取組実績を活かした実施手法の磨き上げを行うこととする3つの基本方針を定めている。

また、この基本方針に基づき、9つの課題(まちづくりと一体的な公共交通体系の構築等)に対応する23の施策(利用促進策等)を取りまとめており、各課題に応じた形で個別の評価指標(幹線バス網の目標路線数等)及び総合指標(市全体におけるバス利用者数等)を設定しており、持続可能な公共交通体系の形成を目指している。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

利用促進策として、①商品割引等などのサービスをバス利用者が受けられる「バス利用お買物手形実証実験」事業、②個人の利用ニーズに応じた「マイバス・鉄道時刻表」の作成・提供、③天候に左右されず快適にバスを待つことができる「バス縁地」制度の創設、④外国人観光客向けに多言語(英語、中国語、韓国語)対応している観光バスマップの作成・配布等を実施した。

また、従来から実施している「サイクル・アンド・ライド」については、駐輪場を民間商業施設に拡大したほか、小・中学生を対象とした「バスの絵」作品や「こうふエコ通勤デー参加協力事業所」の募集を行うなど、積極的な事業展開を図っている。

補助対象事業の概要

コミュニティバスは、市内主要施設への接続ばかりではなく、広域移動できるよう鉄道駅等に接続させている。

【コミュニティバス「上九一色地区(古閑町)～中道地区経由～市立甲府病院、南甲府駅線」】

事業者名: 富士急バス株式会社

運行系統: 古閑町～中道地区～市立甲府病院経由～南甲府駅 23.35km 他

運行日: 月曜～金曜(土曜、日曜、祝日、年末年始は運休)

運行時間帯: 7時34分～17時05分

運行本数: 4便/日(平成31年4月より、早朝1便のみ、10人乗り乗用車を追従する形で5人乗り乗用車を運行)

運行車両: 10人乗り乗用車(平成31年4月より、早朝1便のみ、10人乗り乗用車を追従する形で5人乗り乗用車を追加運行)

運賃: 一律300円(未就学児は無料、障がい者は100円)

ただし、市立甲府病院を中心とした半径1km圏内については、一律150円(未就学児は無料、障がい者は100円)

面積		212.47km ²
人口 (H31.3.31時点)		187,868人
	15歳未満	22,503人
	65歳以上	55,001人
高齢化率		29.28%
世帯数		90,477世帯

網計画の策定年月日

平成31年3月31日

協議会開催状況

○協議会の開催状況 2回開催

・第1回(平成31年4月26日)
生活交通確保維持改善計画(案)に関する事項について

・第2回(令和2年1月29日)
事業評価について【書面会議】

前回の事業評価結果の反映状況

利用者数に関する目標が達成には至っておらず、その要因を検証するとともに、今後も引き続き、住民のニーズ等を勘案し、運行ルートやダイヤ等の利便性向上策の検討や利用促進を図ることが重要との助言に対し、平成31年2月より、利用促進策と商品割引等などのサービスをバス利用者が受けられる「バス利用お買物手形実証実験」事業を開始した。また、利便性を向上させるため、上九一色地区公共交通協議会やバス事業者と協議し、平成31年4月より、早朝1便のみ、10人乗り乗用車に追従する形で5人乗り乗用車の運行を開始した。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標】

- ・ 1便当たりの利用者数 3,8人以上
- ・ 年間利用者 3,700人以上

【当該指標・目標値を設定した理由】

- ・ 高い努力目標を示すことで、住民のマイバス意識の醸成を図ることが出来るとの住民判断により設定している。
- ・ なお、甲府市地域公共交通網形成計画の総合指標に「市全体におけるバス利用者数」を位置づけているが、当該利用者数を評価するにあたり、上九一色地区を運行するコミュニティバスの年間輸送実績を含めて判断することとしている。

【効果】

- ・ コミュニティバスを運行することで、市内の医療施設・商業施設・鉄道駅などへの移動が可能になり、日常生活の維持が図られる。
- ・ 高齢者の外出促進及び健康寿命の延伸が期待できる。
- ・ コミュニティバスを鉄道駅に接続することにより、広域移動を行うことができる。



目標・効果の達成状況

【上九一色・中道地区コミュニティバス線】

- ・ 1便当たりの利用者数 4,34人
- ・ 年間利用者 4,383人

【目標を達成できた要因（分析）】

定期的に「上九一色地区公共交通協議会」を開催することで、地域ニーズを把握することができ、更なる利用促進のため、「バス利用お買物手形実証実験」事業の開始や、5人乗り乗用車の運行開始により利用者が増えたと考えている。

アピールポイント

モビリティ・マネジメントを積極的に展開している。

- ・ バス運転手より交付されたお買物手形を商業施設に提示すると、商品割引などのサービスをバス利用者が受けられる「バス利用お買物手形実証実験」事業の開始
- ・ 個人の利用ニーズに応じた「マイバス・鉄道時刻表」の作成・提供
- ・ 天候に左右されず快適にバスを待つことができる「バス縁地」制度の創設
- ・ 外国人観光客向けに多言語（英語、中国語、韓国語）対応している観光バスマップの作成
- ・ また、従来から実施している「サイクル・アンド・ライド」については、駐輪場を民間商業施設に拡大したほか、小・中学生を対象とした「バスの絵」作品や「こうふエコ通勤デー参加協力事業所」の募集を行うなど、積極的な事業展開を図っている。

今後の改善点

上九一色地区以外の地域も経由することから、当該地域の利用を高めるため、時刻表などのチラシ配布に努めていく。



公共交通体系図(鉄道・民間路線バス)

